【参加・協力団体の活動紹介】

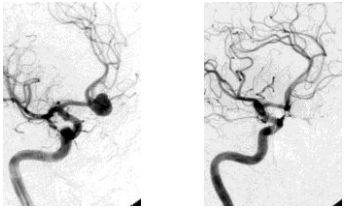
日本脳神経血管内治療学会の活動

脳血管内治療と当学会の医療安全の取り組み

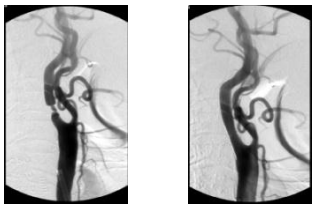
NPO 法人日本脳神経血管内治療学会
理事、法務・医療安全委員会委員長
桑山 直也

NPO 法人日本脳神経血管内治療学会（http://www.jsnet.umin.jp/）は、広く市民に対して脳神経血管内治療、及び関連する領域の学術研究、広報、調査研究及び資格認定等を行うことで、その進歩及び発展を図り、学術文化の発展と国民の福祉に寄与することを目的とした特定非営利活動法人です。

脳血管内治療とは脳動脈瘤のコイル治療（図１）や頚動脈狭窄症に対するステント治療（図２）など、カテーテルを用いて行う低侵襲な治療法です。

（図1） 

動脈瘤治療前　動脈瘤治療後

（図2） 

頚動脈治療前　頚動脈治療後

当学会の医療安全に関する取り組みをご紹介いたします。

・危険手技の安全な実施に関して

厳格な専門医試験制度（筆記/実技/実地監査、現在の専門医 550 名）を実施しており、資格取得後も生涯教育（CEP: Continuous Educational Program）を継続し、さらに 5 年毎の資格更新による技術・知識のアップデートを促進しております。

・医療機器の安全な操作と管理に関して

法務・医療安全委員会を設置し、医療安全において統括したリスクマネージメントを実施しています。また医療機器等実施基準策定委員会、診療ガイドライン整備委員会を設置し、新たに認可、導入される様々な医療機器、医療技術に対する安全な使用（施行）ガイドラインを作成しています。これに加え、機器の安全使用、技術の普及を目的としたライブセミナーやハンズオンセミナーの開催（総会、各地方会、医師対象）を促進しています。

・事例要因分析に関して

法務・医療安全委員会を設置し、医療事故に関する相談受け付けや事例検討を実施しています。

・患者・市民の医療参加に関して

学術総会開催時には市民公開講座を併設し、広く一般の方々の参加を促しています。